

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>1 個々の生徒の能力、適性、興味、関心や進路希望に応じた主体的な学習を促し、きめこまかな指導の実践により、生徒の進路希望の実現を図る。</p> <p>2 基本的な生活習慣を身につけ、自らを大切にし他人を思いやる心をもつ生徒を育てる。</p> <p>3 教職員、生徒が希望、情熱、愛情、信頼をもって一体となる、特色ある、活力にあふれる学校づくりを進め、保護者、地域から信頼を得る。</p> <p>4 学校評価、教職員評価システムによって、自己点検、評価を行い、教育活動の改善を目指す。</p>	<p>1 ICT機器の活用により、生徒の興味関心を高める授業改善が進められている。また、「Classi」を活用し、学習時間調査やポートフォリオの作成等に取り組みしたが、日常的な活用に至っていない。さらに生徒の利用を推進しておくことが求められる。</p> <p>2 コロナ禍の影響で、年度当初の部活動活性化に向けた行事等が実施できなかったこともあり、加入率や定着率を高められなかった。人権教育については、日程や講師の変更等の必要もあったが、概ね計画どおり実施することができた。</p> <p>3 生徒会がスマートフォン使用（SNSの利用等）の見直しを主体的に取り組んだ。今後も継続していきたい。</p> <p>4 交通安全（特に自転車の通学マナー）、環境美化等に関する課題については、今後も継続して取り組んでいく。</p> <p>5 進路指導については、学年部と進路指導部、各教科が連携し個々の生徒に対して丁寧な指導を行った結果、国公立大学後期日程での合格者数、私立大学への合格者数が増加した。</p> <p>6 広報活動については、コロナ禍の影響で例年のような説明会の実施ができなかったが、ICTを活用した取組（学校紹介 YouTube、公式インスタグラム、iPad の活用等）を充実させることができた。志願者増に向けての取組は、対外的なアピールだけでなく、在校生の学校生活に対する充実感、満足感が大きく影響する考えられることから、現状の学校の見直しが急務である。</p>	<p>1 生徒の主体的な学びによる学力の向上と希望進路の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTの積極的な活用等により授業改善を推進し、主体的・対話的で深い学びの実現を図り、生徒の学習意欲を高める。また、Classi 等のツールを教職員も積極的に活用することにより、生徒の主体的な自学自習時間を増加させ、希望進路実現に向けた学力向上を図る。ICT教育の更なる推進に向けて、令和4年度入学生から全府立高校生において生徒一人一台端末が導入される。導入に向けて利活用等の準備を行う。 <p>2 豊かな人間性と規範意識の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動の活性化を図り、加入率・定着率を高め、学校全体として活気のある集団を形成することにより、生徒の心身の健全なる成長を図る。 ユネスコ及び文部科学省からの「ユネスコスクール認定校」、京都府教育委員会からの「次世代型小・中・高連携外国語教育推進事業」及び「グローバルネットワーク京都校」の指定をもとに、英語・国際教育をさらに発展させ、グローバル人材の育成を行う。 生徒にけじめのある学校生活を過させることを通じて、規範意識の向上と公徳心の育成をめざし、全教職員で足並みを揃えて指導にあたる。 <p>3 広報活動等による積極的な情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校説明会、学校HPや「西乙だより」の内容をさらに充実させるとともに、様々なツールを積極的に活用し、中学生や保護者にタイムリーな情報提供を行い、志願者の増加を図る。

評価領域	重点目標	具体的方策(○取組計画・◇評価指標)	評価	成果と課題
組織・運営	◇分掌間・教科間の協力推進	○教職員全体が課題改善に向けた共通の認識をもち、連携と調整を図る。 ○ICTの活用により、情報の共有化と業務の効率化をさらに推進する。	B	・全校体制で授業配信を実施することができたが、ICT活用について教員向けの研修が不足している。業務の効率化はそれほど図れていない。
学習指導と進路指導	◇授業改善	○主体的・対話的で深い学びに向けてICTを積極的に活用する。そのために分掌・教科が連携し、先進的な取組事例等を教職員間で共有して授業改善が進むようにする。特に総合的な探究の時間が全校的な取組になるよう、令和4年度からの校内体制を整える。	B	<ul style="list-style-type: none"> iPad と電子黒板の活用は徐々に進んできた。校内公開授業週間では各教科代表者の授業において ICT 活用の場面が多く見られ、一定の成果があったが、来年度の新入生が全員タブレットを持って授業に臨むことに対する準備はまだまだできていない。 主体的・対話的で深い学びに向けての授業改善やそれに向けた交流は不十分であった。 2・3年生における総合的な探究の時間では ESD を推進する取り組みも実施でき、2年生では学年発表会を行うことが出来た。 国際交流、異文化体験等の活動はほとんど出来なかったが、インターネットを使ったオンライン交流や府教委の高校生サミットやハイブリッド研修に参加するなど、できる限りの国際教育活動を実施した。また、形を変えて実施できたサントリー講演会やジャコビー高校との文通は一定の教育的効果があったと考える。 私立大学への推薦入試での合格者数は増加したが、共通テストは厳しい結果に終わり、国公立大学への進学は難しかった。 土曜講習でのICTによる学習支援、ポートフォリオ等に記録と振り返りの支援は充分にはできなかった。 図書館の貸出冊数 1,000 冊を超え目標達成できたが、更なる読書意欲の向上と図書館の利用促進が必要であり課題である。
◇学力の向上	○華道体験、茶道体験、サントリービール工場見学等の体験活動の他、総合的な探究の時間の先行実施における取組が充実するよう分掌・各教科とも連携し、主体的な学びを推進させる。	B		
◇国際教育の推進	○総合的な探究の時間や各教科の学習、生徒会活動等、学校教育全体を通じて、ESD(持続可能な開発教育)を推進するための準備を進めるなど、異文化理解や国際協力意識の涵養を目的とした国際教育の一層の推進を図る。国際交流が縮小しても、異文化理解や伝統文化理解を深めるなど、ユネスコスクールとしての取組を積極的に推進していく。	B		
◇希望進路の実現	○3年7限講習、土曜講習、長期休業中の講習等を通じて、進路実現に向けて実力の向上を目指す。また、土曜講習では、ICTによる学習支援を計画する。 ○オープンキャンパス、小論文指導、模擬面接、高大連携等を通じて、生徒が具体的な進路目標実現に向けて、行動できるように支援する。その活動をポートフォリオ等に記録し、振り返りの支援を行う。 ○進路指導部と学年部及び各教科との連携を密にし、生徒個々の進路希望に応じた指導を徹底し、私立大学合格者数の増加及び進路決定率 100%の実現を目指す。共通テスト及び高大接続改革への対応を継続する。	B		
◇図書視聴覚教育の充実	◇読書意欲の向上と図書館の利用促進 ○新着本等のディスプレイを工夫し、生徒の読書意欲向上と図書館利用の促進を図り、貸出冊数 1,000 冊を目標とする。	B		
生徒指導と特別活動	◇規範意識の醸成	○スマートフォン、SNSの適正利用に向けた指導(有効で持続的な方法の検討) ・これまでのスマートフォン指導の見直しと併せて、新たな取組を1つ以上導入する。	B	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォンの取り扱いはある程度ルールが浸透してきた。一方で、登下校時や昼休みにはスマホから離れられない生徒が一定数存在する。スマートフォンを使用しての誹謗中傷など、他者への人権配慮は、次年度への課題である。 部活動は、コロナ禍で加入率・定着率の向上が見られなかったが、合同チームを編成するなど、活動できる環境を模索した。 自転車通学マナーの苦情が近隣住民からあるのが早急な課題である。 新たな取組が導入できず、次年度に検討の必要がある。
◇特別活動や部活動の充実	○部活動の活性化(加入率・定着率の向上及びリーダー育成をねらった取組の充実) ・令和元年度より導入した取組のさらなる充実を図る。	C		
◇交通安全指導の推進	○交通安全の徹底指導(有効で持続的な方法の検討) ・これまでの通学安全指導の見直しと併せて、新たな取組を1つ以上導入する。	B		
◇人権教育の推進	○人権学習を通じて生徒の人権意識を高めるとともに、あらゆる教育活動において人権感覚を養う指導を行う。	B		
健康安全	◇環境・美化の推進	○学習環境を整えるために、日常の清掃活動をきめ細かく丁寧に行い、保健委員会を中心としたゴミの分別やトイレの二足制の徹底等、環境美化活動や広報活動を行うことで、学校全体の意識向上を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> 昼食時の感染症予防の呼びかけの放送や定期考査・学校説明会に向けて清掃点検をするなど、積極的に保健委員会が活動することができた。 日頃の清掃の更なる徹底とゴミの分別がまだ不十分であるので徹底した教育。 教育相談会議や特別教育支援会議の内容を情報共有することができた。地域の専門機関と連携し、生徒の対応を協議することができた。 家庭の問題や対人関係のストレスから精神的に不安定な生徒、学習や生活場面に支援が必要な生徒が年々増加している。支援が必要な生徒全てに対応するには、物理的な時間と体制が必要である。
◇生徒の実態把握と支援の充実	○健康診断や宿泊を伴う行事の際には保健調査を行い、健康状況を把握するとともに、学校医・関係職員と連携して健康管理を行う。新型コロナウイルス感染症に代表される感染症等の正しい予防の知識と自主的な対策に向けての行動ができるように、日頃から安全衛生の指導の徹底を図る。 ○多様な状況の生徒が増えてきているので、関係教員や他分掌と情報共有しながら丁寧な指導を行う。生徒の実態により、スクールカウンセラー及び地域の専門機関(医療・特別支援センター・児童相談所等)との連携により、学校における教育相談及び特別支援教育を充実させる。	B		

評価領域	重点目標	具体的方策（○取組計画・◇評価指標）	評価	成果と課題	
魅力ある学校づくり	◇広報活動の充実	<p>◇学校説明会・広報誌「にしおつだより」等の充実</p> <p>○学校説明会において、積極的に「ICTを活用する」とともに、中学生や保護者の「知りたい情報や本校の魅力・特色などをわかりやすく発信」する。また、説明会の参加者を昨年より「100名増加」させる。（昨年度23名減）</p> <p>○広報誌「にしおつだより」を「約月1回発行」し、中学生などに学校の取組や情報、生徒の活躍、本校の魅力を発信する。</p> <p>◇志願者増加</p> <p>○志願者増加に向けて、こまめに中学校との連携を図り「11月の志願者数160名（昨年129）、最終志願者を昨年より、のべ合計50名増加」させる。（目標 前期170 中期150）</p> <p>◇WEB等による広報の充実</p> <p>○ホームページをより見やすく使いやすいものに「リニューアル」して、学校情報や本校の魅力を、よりわかりやすく外部に発信する。</p> <p>○「全部活動、学期に1回はHP更新」するとともに、ホームページ「全体の更新を平均週5回」を目指し、ホームページ閲覧者の増加に努める。</p> <p>○様々なツールの積極的な活用を模索し、中学生や保護者にタイムリーな情報提供を行い、志願者の増加を図る。</p> <p>◇校内での広報</p> <p>○校内モニターを活用し、在校生に向けた取組を行う。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 説明会の参加者を昨年より100名増まではいかなかったが、約50名増やすことができたのは成果である。ただ中学校との連携はできているが、志願者増に繋がらなかったのが課題である。 にしおつだよりやインスタグラム、YouTube、説明会でのICT活用は充実できた。コロナ禍で学校に来れない中学生や保護者にとっても高校生活のイメージがよくなりやすくなったと思う。 ホームページのリニューアルや日々の更新を次年度に向け、行いたい。 学校の魅力である部活動（吹奏楽、弓道等）や学びやすい静かな環境、それ以外のPRすべき所を学校全体で早急に模索していかなければ、志願者減少に歯止めがきかなくなっている。 中学校で勉強に苦手意識を持った生徒に、丁寧に指導することで、進路希望の実現がされていることをもっとアピールすべきである。 「国際」と謳っているコースの魅力があまり理解されていないのではないか。コロナ禍で困難な部分があるが、もっと独自のアイデアを出していくことが求められる。YOLO CAMPは重要なPR要素だと考える。 避難訓練は従来の形では実施できなかったが、災害救助用飲料水やアルファ米の梅がゆを配布し、より身近に感じる工夫をして実施した。 来年度導入の1人1台タブレット活用に向けて、色々な課題がある中、関係者との連携を密にして進められている。ICT関係は積極的に動きがあり、進んでいっている。 Teamsの活用は進んだが、Classiの活用がほとんどできなかった。どのように生徒や保護者と繋がるかが来年度以降の大きな課題である。 	
	◇安心・安全な学校環境づくり	<p>○生徒が安心して学校生活を過ごせるよう、危機管理を共有し、緊急時には迅速かつ適切な対応ができるよう努める。</p> <p>○ICT教育における生徒のタブレットやClassi等の利用促進を図るべく、ICTプロジェクトチームと連携し環境整備や予算の適切な執行を行う。</p>	B		
	◇学年の取組（3年）	<p>○進路実現に向け、早期に面談等の指導を実施。希望進路に向けた学習計画を立て必要に応じた指導・方策を学年で検討、共有し学年全体の意識を向上させる。</p> <p>○集団として質の向上を図るため、規則とマナーを守るだけでなく、常時の挨拶を徹底し、学校・学級に帰属している意識を高めていく。</p> <p>○行事への積極的な参加を全体に促し、学級のみならず学年で一つのことに取り組むことへの意義を理解させ、学校生活が豊かになるように取り組んでいく。</p>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現に向け、産近佛龍レベルの大学への合格者数が例年よりも増え、全体の進路に対する意識も大きく変わった。 コロナ禍で多くの制限がされる中、西乙祭（体育の部）など行事への参加がどのクラスも積極的にできた。 西乙祭（文化の部）は結果的に中止になったが、発表に向けて各クラス一致団結して準備ができた。
	◇学年の取組（2年）	<p>◇生徒の目標を実現させるためにやるべきことをやらせきる。</p> <p>○集団生活上の規則やマナーの指導の重視…頭髪・服装、あいさつ、時間を守る、掃除</p> <p>○学習習慣の確立…授業を大切に。部活動に入る。家庭学習の時間を確保する。提出物を期限までに出す。</p> <p>○人生の目標や職業観、進学意識の形成…夢を持って次のステージへ進学できるようにする</p>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・スマホ・頭髪等、繰り返し指導をしてきた。特に、清掃はよく努力をした。 朝学習で読書を行い、授業へ向かう準備ができた。 卒業後の進路をまだ描けていない生徒がいるので、意識を向けさせる工夫を考えなければならない。次年度へ向けて、最終学年となるので、より一層進路意識を持たせる工夫を考えたい。 研修旅行では、東日本大震災を踏まえた学習色の強い内容だったが、震災を深く考える有意義な研修となった。
◇学年の取組（1年）	<p>Where there's a will, there's a way.「意志あるところに道あり」 自らの意志で道を切り拓くような高校生を育てる。</p> <p>○社会へのWILL(意志) ー素敵な高校生になるためにー 社会の一員としてマナーを守る（ルール、あいさつ、時間、掃除など）</p> <p>○学びへのWILL(意志) ー夢を叶えるためにー 豊かな人生のために学ぶ（授業、家庭学習、パフォーマンス課題など）</p> <p>○自分へのWILL(意志) ープラス思考でー 何事にも前向きに取り組む（部活動、学校行事、クラス活動など）</p>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 学年独自の遅刻指導など、生徒一人一人に早期に対応できている。 部活動の加入率が低い。新年度からでも部活動への参加を積極的に促していく必要がある。 マナーについては、厳しく指導したつもりである。一定生徒たちに浸透したと考える。 落ち着いた学習環境が提供できたと思う。レシテーションコンテスト等のパフォーマンス課題には積極的に取り組めた。 数少ない学校行事にも前向きに取り組めた。 	

学校運営協議会による評価	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での教育活動において、ICTの活用が進んだ点は評価できるが、リアルの良さを最大限に生かすためにも、ICTを使った準備は進めておくべきである。 国際交流、異文化体験等は、コロナ禍でもできる形を模索しより多くのことを実施すべきである。海外に行くことを想定しなくても、できることはある。 魅力ある学校を目指すため、授業のさらなる改善をし、学習意欲の向上に努めるとともに、行事などを実施することにより生徒の意欲向上を目指してほしい。 西乙訓高校の魅力を伝え、受験生にアピールすることが大切。SNSを活用した情報発信や学校説明会等での生徒による発表をもっと活用してはどうか。 クラス数の減少により、学校の規模が小さくなっているが、規模が小さいことを武器に変える発想の転換が大切。そのためには、教職員の意識改革が必要である。
--------------	--

次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> コース改変により、1年生・2年生は、全クラスが国際を冠にするコースになったが、次年度はさらに国際を柱とする特色化の推進を図る。 コロナ禍における特色化の推進に向けて、本校におけるこれまでの教育活動を見直し、どのような形で実施できるのか、校内での熟議を図り、具体的方策につなげる。 総合的な探究の時間等を活用し、ユネスコスクール、グローバルネットワーク校としての取組をさらに充実させ、本校の特色を積極的にアピールしていく。
---------------	--